

イカスメルマガ原稿

★★★★★★★ NPO イカス メールマガジン ★★★★★★★★★★★★★★★

2025年1月25日発行

活かす通信

2025年2月(第211号)

<http://npo-icas.com/>

★★

巻頭言 勝池レポート アジア資産運用アドバイザー 勝池和夫

「インド製造業の復活」

★★

インド有数の財閥であるタタ・グループの N. チャンドラセカラン会長は、昨年12月に従業員向けに送った新年のメッセージの中で、インド経済のこれからを “A new manufacturing golden age for India” (インドの新しい製造業の黄金時代) と表現しています。そして、タタ・グループはその方向性に沿って、今後5年間で50万人の雇用を製造業(半導体、電池、電気自動車、太陽光発電など)から生み出すと、野心的な計画を発表しています。因みに現在のグループの従業員は約100万人です。

長い間、「うつろな経済成長、育たぬ製造業、遠い中国の背中」などと、多くのメディアからその成長性に難癖をつけられ続けたインド経済ですが、会長は、「製造業の力でその形が大きく変貌する可能性がある」とも言っています。

それほどまでに、世界のサプライチェーンのシフトはインド経済を有利にしているようです。同時に、その膨大な人材プールと拡大する生産能力、急速に進む交通インフラ整備や、更に政府の製造業支援策などにより、インドの製造業の復活の可能性は日に日に大きくなっています。

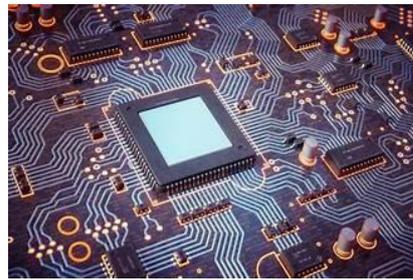
インドは昔、インド更紗(木綿地に多色で文様を染めた布製品)で世界に君臨した製造業大国でした。元在インド大使の榎泰邦氏は、「ただ、18~19世紀の英国の植民地政策によって徹底的に破壊され、『失われた2世紀』の傷が余りにも大きく、独立後の社会主義政策下で閉鎖市場であったことも相まって世界の技術革新の波に立ち遅れたことは否みません。これからのインドは本来有している高い物作り能力を発揮して、ITのみならず再び世界の製造業大国に発展する実力を有していると信じております」(2006年2月9日在インド日本国大使館)と語っています。今まさに大使の予言が現実になってきているようです。

製造業の発展はその国の経済に大きな乗数効果を生みます。半導体製造だけでも膨大な雇用機会を創出します。現在、インドのGDPに占める製造業の割合は15%程度ですが、独立100周年の2047年までには30%近くに上昇し、中国の背中を跳び越えた世界の工場と呼ばれるようになっていくかもしれませんね。

<インド更紗>



<半導体>



★★

ムッシュ望月の1月の相場展望
トランプの製作に乗れ

★★

昨年7月14日にトランプ前大統領が演説中に撃たれる暗殺未遂事件が起き、その後同年8月6日にハリス副大統領が民主党の副大統領候補となったところから米国市場の流れが大きく変わったと言える。同年8月5日までは40000ドルを割込んでいた。それから着実に株価は上昇し始め同年11月5日の大統領選でトランプが勝利するまで上昇を続けた。この段階から米国が大きく変わることを市場は受け入れた。同年8月5日のダウ平均は38499ドル、同年11月11日の高値44486ドルまで15.5%も上昇した。トランプ大統領の政策がまだ発表される前のことであった。トランプ氏であれば大きな変化をもたらすという期待と言える。民主党のバイデン大統領の不安に対する裏返しでもあった。2025年1月20日にトランプ大統領の就任演説が終わり、その政策を評価していく段階に入った。このタイミングで100を超える大統領令を準備しており、政策の実効性にも期待が高い。まずはイスラエルとハマスの停戦合意にこぎ着けた。また敵視していたTikTokを米で再開することになった。全て中国に対してNOを突きつける訳ではないことを証明した。エネルギー政策も大転換し、インフレを迅速に克服する事に対する期待も大きい。

さて、その動きに対して東京市場はどの様に動いたのだろうか。2024年の33業種別ランキングから今年の有望な業種を考えてみたい。昨年のダ第一位の業種は保険業の+45.31%、第2位は銀行業の+42.80%、第3位は非鉄金属の+41.57%、第4位は石油・石炭の+29.41%、第5位が繊維製品の+22.93%、第6位はその他製品の+17.7%、第7位は証券・商品先物取引業の+17.54%、第8位は倉庫・運輸関連業の+15.12%、第9位はサービス業の+14.59%、第10

位は小売業の+12.45%、第11位は機械の+10.56%、第12位は精密機械の+9.91%、第13位は建設業の*9.43%、14位は電気機器の+8.88%、第15位はその他金融の+8.16%、第16位はガラス・土石の+5.70%、第17位は情報・通信業の+4.48%、第18位は不動産業の+3.61%、第19位は水産・農林業の+2.97%、第20位は金属製品の+1.34%、第21位は卸売業の▼0.24%、第22位は医薬品の▼0.79%、第23位は鉱業の▼1.01%、第24位は輸送用機器の▼3.18%、第25位は食料品の▼3.68%、第26位は化学の▼4.08%、第27位は電気・ガス業の▼4.35%、第28位はパルプ・紙の▼4.50%、第29位は海運業の▼6.37%、第30位はゴム製品の▼10.48%、第31位は鉄鋼の▼12.14%、第32位置は陸運業の▼13.84%、第33位は空運業の▼14.06%の順番であった。昨年の日銀による金融政策の変更から金利敏感株である保険・金融が大幅に上昇した。個別で見ると、防衛関連（機械に分類）の三菱重工、川崎重工、IHIの上昇が目立った。一方、円安や原油価格の上昇の影響を受けた陸運・空運業や紙パルプが大きく影響を受けた。今年は昨年と異なる業種が上昇するのか昨年の延長線上で行くのか考えてみたい。「人の行く裏に道あり花の山」

銘柄では、当然トランプ政策で大きく変わるエネルギー政策により、空運、陸運、海運、鉄鋼、ゴム、パルプ紙が恩恵を受けることになる。日本航空、ヤマト運輸、郵船、日本製鉄、ブリジストン、王子製紙、この6銘柄で日経平均を超えるパフォーマンスに期待したい。

純記

★★

深月ユリア（フリージャーナリスト）

トランプ政権がもたらすのは「黄金時代」か、あるいは破滅か

★★

【親日の次期大統領候補者に「トランプの裏側」についてインタビュー】

「アメリカの衰退に終止符を打ち、黄金時代が今まさに始まる。アメリカを再び偉大にする」

就任演説で「アメリカ第一主義」を強調し、樹立した第二次トランプ政権。トランプ大統領は「不法移民排斥のため、国境を巡る非常事態宣言の発令」、1798年に制定された「敵性外国人法の適用の再開」をすると表明主張した。

この法律を適用すると、法的手続きを行わずに外国勢力を国外追放できるようになる。また、トランプ大統領は「政府方針として男性と女性、二つの性しか認めない」と語ったが、これは「LGBTを認めない」という意になる。

今後、世界はどのように変化するのか。

2020年に米国で「緑の党」から大統領選出馬を宣言していたエマニュエル・パストリッチ氏(60)にインタビューした。

パストリッチ氏は米イェール大学卒業後、東京大学大学院に留学し、帰国後にハーバード大学で日中韓の文化に関する研究に携わり博士号を取得後にイリノイ大学とジョージワシントン大学で教授を務めた人物だ。

韓国ではパク・クネ元大統領に自筆の論文を通じてオバマ大統領との外交に関する提言をしたり、外交活動にも携わっていた。かねてより、同氏は「米国は原爆投下について日本に謝罪すべきだ」「米国と日本はより対等な外交関係を結ぶべき」と主張してきた親日米国人だ。去年の大統領選出馬はやむ無く断念したが、米大統領になるという大望は捨てていないという。

「トランプはディープステート(陰謀論において悪魔崇拝し、児童売春を行い世界の支配を企むという秘密結社)と戦っている」という説もあるが、パストリッチ氏はトランプ大統領の裏に危険な人物たちがいてトランプ氏を操っていると主張する。

「トランプも児童売春斡旋を行っていたことが明るみになり、逮捕された直後にニューヨークの矯正施設で不審な死をとげたジェフリー・エプスタイン氏(陰謀論に於いてディープステートのメンバーだといわれる)と親しかったです。

トランプはイーロン・マスクなどの大富豪、シオニスト(パレスチナにユダヤ人の民族国家を再興しようというシオニズム運動を支持する人々)、軍産複合体の主に3つの利権に操られています。

イーロン・マスクなどのAI開発事業に携わる大富豪は政治をAIに任せて、AIを頂点とした世界政府を理想としています。

AIが合理的で平等だといわれますが、AIを管理するのが人間です。危険な利権がAIを操り、それが『AIの答え』だと主張して民衆をコントロールしてしまう可能性が否めません。

また、トランプ大統領の主張がちよくちよく変わるのは、3つの利権の主張が一致していないからです。例えば、シオニストはLGBTを批判しますが、大富豪の中にはLGBTもいます」

【ウクライナとガザの戦争】

トランプ大統領政権下で世界はどのように変わるのだろうか。トランプ大統領は「ウクライナとガザの戦争を終わらせる」と繰り返し主張してきた。大統領就任前に SNS でハマスに対して「もし自分の就任式までに人質を解放しないと地獄を見るぞ」と脅しをかけて、ハマスはイスラエルに譲歩し、1月19日から6週間にわたる停戦合意がされた。オスロ合意を無視してイスラエルが侵食してきたガザ地区の領土問題は棚上げで、まずハマス側がまず33人の人質を開放することが条件となる。パストリッチ氏は今回の「停戦合意」に疑念を抱いている。

「バイデン政権下でも何度も停戦合意が行われましたが、あくまで一時的なものでした。ガザの戦争は終わらず、むしろイランが戦争に加わりイスラエルを攻撃し、戦火が拡大する可能性もあります」

ウクライナとロシアとの戦争に関しては、

「かねてより、米国の最大の敵国は中国で、ロシアと戦うとしても、まず中国を倒してから、という方針でした。

そして、トランプ大統領はロシアマフィアとの結び付きがあります。15年ほど前、まだトランプ氏が会社が破産した時に、ロシアマフィアがトランプ氏の所有する複数の不動産を購入しました。トランプ大統領はプーチンとも親しく、ロシアに歩み寄る可能性はありますが、長らく続いた戦争で、ウクライナは簡単に停戦を受け入れないのではないのでしょうか」

【トランプ大統領はユン・ソンニョル大統領を刑務所から出し傀儡政権にする？】

トランプ大統領は北朝鮮の金正恩朝鮮労働党総書記とは「非常な良好な関係」にあると主張してきたが、朝鮮半島情勢に影響はあるのか。

「この発言は韓国に対する威圧のためのパフォーマンスのように思います。北朝鮮に関して、トランプ政権は①韓国に朝鮮半島を統一させ対中包囲網に加える②中国やイランと同様に敵視する、二通りの戦略を有しています。

トランプ大統領は先月に戒厳令を発令したユン・ソンニョル大統領と親しいです。ユン・ソンニョル大統領は戒厳令を発令する際に『民主党の反対勢力は北朝鮮や中国共産党の工作員だ』という陰謀論を主張しました。そのような話があり得ないとは言えませんが、陰謀論を用いるという手法がトランプ大統領と類似しているのです」

現在、内乱首謀の疑惑で身柄を拘束されているユン・ソンニョル大統領だが、トランプ氏は韓国の政治情勢に介入する可能性はあるのか。

「可能性は有るでしょう。韓国にユン・ソンニョル大統領の開放するよう求めて、トランプ大統領の意のまま操ろうとするかもしれません。トランプが最も敵視しているのは中国ですから、韓国、ロシア、日本で対中包囲網を築くという構想があるのです」

【中国、日本蔑視の「黄禍論」】

しかし、トランプ大統領の極端な対中政策は「米国の経済崩壊を招く」とパストリッチ氏は主張する。

「米国の経済も中国に依存していますから、中国からの輸入品に60%もの関税を貸したら、物価高で米国経済は破綻します。庶民は困窮しますが、トランプ大統領を支援する仮想通貨関連の富豪たちは儲かるかもしれませんね。

『中国の若い留学生はスパイだから追放する』という発言もしていますが、19世紀に制定された『中国人排斥法』を真似ていますね。

19世紀よりアメリカには『黄禍論』というアジア人(黄色人種)が白人社会に脅威をもたらす、という思想がありました。同盟国である日本の企業、日本製鉄がUSスチールを買収を『安全保障上の懸念』から禁止した問題にも絡んでいます」

1月13日、米鉄鋼大手「クリーブランド・クリフス」のCEO、ローレンコ・ゴンカルベス氏は記者会見の席上、日本製鉄によるUSスチール社の買収に関連して「中国は悪だが、日本はもっと邪悪だ」などとダンピング問題を批判したうえで、「日本は1945年から何も学んでいない！」などと星条旗を握りしめながら声を荒げたが、「黄禍論」の価値観そのものである。

石破政権はトランプ大統領相手に、巧みに外交手腕を発揮していけるのか。

「15日、森山裕自民党幹事長と公明党の西田実仁幹事長とを中国の李強首相と会談しました。これは対中関係に慎重だった安倍政権時にはありえなかった画期的な出来事です。習近平には問題がありますが、日本に中国と対立するメリットはありません。

米国の仮想敵国、中国と国交を強化するのは、対米従属からより対等な関係性になる為でもあるのかもしれませんが。また、日本はアメリカが仮想敵国としていたイランとも外交関係あります。ウクライナ戦争でも資金援助はしつつ軍事協力さしなかったという方針は(様々な意見はありますが)、上手くバランスが

とれていると思います」

トランプ政権下の世界はどのように変化するのか。石破首相は首相就任前に「日米地位協定の改定」「米国基地の日本政府による管理」を主張していたが、今後の日米関係はどう変わっていくのか。

ユリア記

2025年02月以降イカススケジュール

- 02月05日(水): 15:00~花咲投資クラブ (A)
02月06日(木): 13:30~御苑貴族投資クラブ (A)
02月15日(土): 15:00~スペリオール投資クラブ (B)
02月19日(水): 15:00~「株のお姉さん雨宮京子」株式投資塾 (D)
02月27日(木): 15:00~東京3E投資クラブ (A)
03月05日(水): 15:00~花咲投資クラブ (A)
03月06日(木): 13:30~御苑貴族投資クラブ (A)
03月15日(土): 15:00~スペリオール投資クラブ (B)
03月19日(水): 15:00~「株のお姉さん雨宮京子」株式投資塾 (D)
03月27日(木): 15:00~東京3E投資クラブ (A)

★イカスの参加費は2025年から3500円、(C)(D)は4000円

投資クラブは2025年より年42000円となります。

振込先: 三菱UFJ新宿中央支店普通3513550、特定非営利活動法人イカス

第29回カラオケ会: 25年2月28日(金): 18:00~21:00

参加費は7500円、ノンアルコール7000円、倶楽部エル

2025年1月30日(木) 15時~17時: 第1回イカス経済金融文化塾 in 萬来舎
(慶応大学南校舎4階、パレスホテル運営)

講師: 山本博幸氏(元帝京大学経済学部教授、社団日仏会館理事)

「これから金融市場で起こりうること？」

2025年2月26日 15時~17時: 第2回イカス経済金融文化塾 in 萬来社

講師: 勝池和夫氏(タタアセットアドバイザー、ICAS常任理事):

「インド経済のトランスフォーメーション、より速く、より高く、より強く」

2025年3月26日15時～17時：第3回イカス経済金融文化塾、郷圭子理事
「春休みマネー教室・朗読会」 in 萬来舎

2025年6月6日（金）18時～21時：第44回イカス交流会夏の交流会、
外国特派員協会、講師：村上雅則氏（日本人メジャーリーガー1号）
音楽：ソプラノ歌手首代明子氏、ベルディ「乾杯の歌」

投資クラブ会場は（A）新宿御苑前中交公ビル604又（B）はニュー
新橋ビル3F昭和ブックカフェ、（C）は萬来舎、（D）は日本橋大栄ビル

info@npo-icas.com <http://www.npo-icas.com>